

令和3年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	学びに向かう学級づくり			部 会
2 研究員	小学校 3名	中学校 2名	事務所員 3名	



3 研究テーマ

子どもの多様性を生かし、安心して学びに向かう
学級づくりを目指した実践研究

4 研究の取組

(1) 研究内容

- ①「新しい生活様式」の中で、良好な人間関係を構築するための実践
- ②児童・生徒同士が安心して意見が言え、認め合える授業の実践
- ③タブレットを効果的に活用した、学級づくりや授業の実践

(2) 研究のあゆみ

月 日	実践内容	月 日	実践内容
5月10日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月5日	授業研究（小学校での実践）
6月21日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月22日	授業研究会・実践の成果発表等
10月1日	研究内容に沿った授業実践を持ち寄り 成果を発表する	12月9日	授業研究（中学校での実践）
		2月10日	3年次報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・コロナ禍で子ども同士が直接触れ合う活動は難しかったが、つながりを深めるためには改めて対話（何気ない会話も含む）が重要だと実感できた。
- ・教師のコーディネート力が大切であると気付いた。教師が子どもの発言をつなげることで、子どもたち自身がつながり、学び合っているという意識をもたせることができた。
- ・「所属感」と「参画意識」が学級のまとまりを作るためにはとても重要であることを再認識できた。

【課題】

- ・タブレットを活用して授業を実践したが、使い方によっては画面に集中してしまつてつながりを持たせにくいので、あくまでも手段の一つだということを忘れずに有効な活用方法を考えていきたい。
- ・教師のコーディネート力をより一層磨き、子ども同士をつなぐ取組を継続していくことや、小中の取組の共有も意識しながら子どもが安心感を得られるようにしていきたい。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

集団を育て、帰属意識を高める学級づくりの手立ての研究を進め、よりよい集団形成を目指していく。

- ・タブレットの有効な活用方法
- ・コーチング等のコミュニケーションスキルを活用しての実践
- ・学びに向かう学級に育ってきたかどうか、客観的に評価、判断ができるような手立て